

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **06199350 A**

(43) Date of publication of application: **19.07.94**

(51) Int. Cl.

**B65D 25/28**

(21) Application number: **04380915**

(22) Date of filing: **29.12.92**

(71) Applicant: **ENOMOTO KOJI TAKEI AIKO**

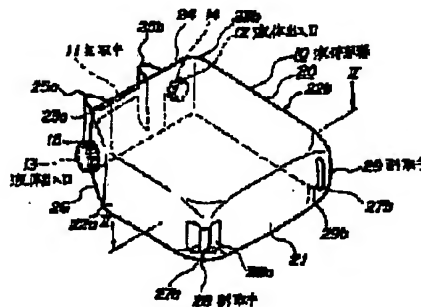
(72) Inventor: **ENOMOTO KOJI  
TAKEI AIKO**

**(54) LIQUID CONTAINER**

**(57) Abstract**

**PURPOSE:** To provide a liquid container which can discharge a liquid easily, safely and assuredly.

**CONSTITUTION:** For a liquid container 10 made of a resin with a size which can be lifted and carried by a human power, a container main body 20 is formed into a box shape of which corners 23a, 23b are formed into a curved surface shape, and liquid inlet and outlet 12, 13 and a main handle 11 are provided on the top of the container main body 20. In the meantime, subsidiary handles 28, 29 to hold the container when the liquid container 10 is tilted are provided at a lower part of the side surfaces of the container main body 20, and the subsidiary handles 28, 29 are integrally formed on the container main body 20 so that the most protruding areas of the subsidiary handles 28, 29 may not protrude from the outer shape surface of the container main body 20.



COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japlo

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-199350

(43)公開日 平成6年(1994)7月19日

(51)IntCl<sup>5</sup>

B 6 5 D 25/28

識別記号

1 1 0

庁内整理番号

7403-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-360915

(22)出願日 平成4年(1992)12月29日

(71)出願人 593022113

榎本 幸治

神奈川県横浜市南区真金町1丁目8番地

(71)出願人 593022124

武井 愛子

神奈川県横浜市南区真金町1丁目8番地

(72)発明者 榎本 幸治

神奈川県横浜市南区真金町1丁目8番地

(72)発明者 武井 愛子

神奈川県横浜市南区真金町1丁目8番地

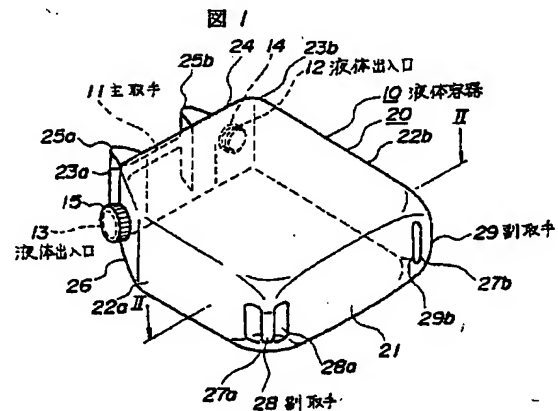
(74)代理人 弁理士 笹井 浩毅

(54)【発明の名称】 液体容器

(57)【要約】

【目的】楽に、安全に且つ確実に液体を排出することができる液体容器を提供する。

【構成】人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器10において、容器本体20をコーナー23a, 23bを曲面状にした箱形に形成し、容器本体20の上部に液体出入口12, 13と主取手11とを設ける一方、液体容器10を傾斜させるときの保持用の副取手28, 29を該容器本体20の側面下部に設け、該副取手28, 29を、その最も突出した部位が容器本体20の外形面から突出しないよう、容器本体20に一体的に形成したことを特徴とする液体容器10。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器。

【請求項2】人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部から底面に折れ曲がるコーナー部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器。

【請求項3】人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部から底面に折れ曲がるコーナー部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、かつ前記容器本体を載置したときの床面との間に指を挿入する隙間を設けて前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の人力で搬送可能な液体容器としては、例えば図5に示すような一般家庭でよく用いられている合成樹脂で一体成形された18リットル入の灯油缶1がある。

【0003】すなわち、灯油缶1は、容器を搬送するときに用いる主取手5とその両側に灯油出口6と灯油入口7を有する上面2と、これに相対する底面3およびこれらに隣接する側面4とから構成され、各辺および各コーナーは、滑らかな曲面8を成し、樹脂で一体成形された箱型の容器である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来の液体容器では、図6(a)に示すように、丁度人力で持ちあげて搬送可能であるが、底に残った液体

2

をすべて排出するときは、まず図6(b)に示すように、一方の手で主取手5を持ちながら、一旦灯油缶1を床に置き、ある程度傾けてから、灯油出口6側の側面4a下部の曲面8aに他方の手を添えてから再び持ち上げなければならず甚だ面倒である。

【0005】さらに図6(c)に示すように、他方の手を滑らかな曲面8aに添えて、灯油出口6が下方に向き傾いた状態の灯油缶1を保持しなければならないので、手が滑って灯油をこぼしたり、容器を落したりするおそれがある危険である。さらに添えている手に余分な力が入ってしまい非常に疲れるという問題点があった。

【0006】本発明は、このような従来の問題点に着目してなされたもので、楽に、安全に且つ確実に液体を排出することができる液体容器を提供することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するための本発明の要旨とするところは、

1 人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器。

【0008】2 人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部から底面に折れ曲がるコーナー部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器。

【0009】3 人力で持ちあげて搬送可能な程度の樹脂製の液体容器において、容器本体をコーナーを曲面状にした箱形に形成し、前記容器本体の上部に液体出入口と主取手とを設ける一方、液体容器を傾斜させるときの保持用の副取手を該容器本体の側面下部から底面に折れ曲がるコーナー部に設け、該副取手を、その最も突出した部位が前記容器本体の外形面から突出しないよう、かつ前記容器本体を載置したときの床面との間に指を挿入する隙間を設けて前記容器本体に一体的に形成したことを特徴とする液体容器に存する。

【0010】

【作用】液体容器の底に残った液体をすべて排出するときは、一旦床に置いてから手の位置を替える必要はなく、一方の手で主取手を持っており、他方の手でしっかりと副取手を持って、液体出入口が下方に向くまで液体

容器を傾け、楽に保持できるものである。

【0011】また、副取手が容器の外形面から突出していないので、置いてある容器の副取手に足を引っ掛けてつまずくことがないし、並べて置く際も、邪魔にならず隣接する容器と隙間なく置くことができる。

【0012】副取手と容器本体を載置したときの床面との間に指を挿入する隙間を設けたものでは、指を副取手に掛けやすく、一層扱いやすい。

【0013】

【実施例】以下、図面に基づき本発明の各種実施例を説明する。

【0014】図1および図2は、本発明の第1実施例を示している。

【0015】液体容器10は、一杯にすると人力で丁度持ち運べる程度の重さになる灯油缶であり、汚れないうちであれば飲料水等の容器等としても使用できるものである。

【0016】液体容器10は、容器本体20の上部に搬送用の主取手11と液体出入口12、13を設けて成る。

【0017】容器本体20は箱形をしており、底面21から側面22a、22b…が立ち上がり、各面が接続するコーナー23a、23b…は滑らかに連続する曲面状に形成されている。

【0018】主取手11は、容器本体20の上面24から上方へ盛り上がった膨出部25a、25bの頂部間に架設され、内部は空洞で容器本体20内に連通している。

【0019】液体出入口12は、容器本体20の上面24の一端部から上方に突出した口筒により形成され、外周には雄ねじが設けられていて、これに螺合して液体出入口12を閉じる蓋14が用意されている。

【0020】液体出入口13は、底面21の基端すなわち上面24の端から下方に傾斜した斜面26から垂直に立ち上がった口筒により形成されるとともに、蓋15が用意されている。

【0021】側面22aの下部であって液体出入口13側の側面22aと底面21が接続するコーナー部27aに副取手28が設けられるとともに、液体出入口13側の側面22bと底面21とが接続するコーナー部27bに副取手29が設けられている。

【0022】副取手28、29は側面22a、22bおよび底面21より大きく突出することなく、コーナー部27a、27bの外形の一部を形成するように一体的に設けてある。

【0023】副取手28、29に沿った側面22a、22bから底面21にかけての内側には、副取手28、29と液体容器10本体との間に手を挿入できるよう凹部28a、29bをそれぞれ設けてある。

【0024】次に作用を説明する。

【0025】液体容器10は、主取手11の下に指を入れてつかみ、持ち上げて運ぶ。液体容器10を傾斜させ、ひっくり返して容器本体20の内部に入れた灯油等の液体を出すときは、一旦床に置いてから手の位置を替える必要はなく、図4に示すように、一方の手で主取手11を持ったまま、他方の手で液体出入口13と対称な位置にある副取手29をしっかりと持って上に引き上げ、難なく液体出入口13が下方に向くまで液体容器10を傾け、楽に保持しておくことができる。

【0026】液体容器10をさらに傾ける場合や、液体出入口12から灯油を出す場合は、液体出入口12側にある副取手28を使用すると楽に作業ができる。

【0027】副取手28、29は、側面22a、22b、底面21から突出していないので、置いてある液体容器10の副取手28、29に足を引っ掛けてつまずくことがなく、液体容器10を縦横に並べて置くときでも邪魔にならず、隣接する容器10、10…に対して隙間なく並べることができる。

【0028】図3は、本発明の第2実施例を示している。本実施例の液体容器20は、底面21を床Fに載置したとき手先が副取手21a、21bと床Fとの間に入るよう、副取手21a、21bを僅かに上に配置し、隙間Sを形成するようにしたものである。

【0029】本実施例では、液体容器20を床Fに置いてあるとき、直接に液体容器20を持ち上げて傾けると、隙間Sから床Fと副取手21a、21bとの間に指を入れて副取手21a、21bに容易に指を掛けることができる。

【0030】なお、前記各実施例において、灯油用の合成樹脂製の液体容器の場合について示したが、一体成形される樹脂製の薬品容器等の容器で実施してもよい。

【0031】

【発明の効果】本発明に係る液体容器によれば、液体容器を傾けて内部の液体を排出するとき、一方の手で主取手を持つ一方、他方の手で容器の側面の下部に設けられた副取手を持ち、液体容器を両手でしっかりと保持して傾けることができるので、楽に確実にしかも安全に作業をすることができる。

【0032】液体容器は樹脂一体成形品であるので、形状の変更のみで済むからコストアップすることはほとんど無く、外形が円滑なので載置したときスペースを取らず、また、扱いやすい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例に係る液体容器の倒した状態を示す斜視図である。

【図2】図1のII-II線における要部断面図である。

【図3】本発明の第2実施例の要部断面図である。

【図4】液体容器を傾けて保持するときの作業状態の説明図である。

【図5】従来の液体容器の斜視図である。

5

6

【図6】従来の液体容器を傾けて保持するときの作業状態の説明図である。

【符号の説明】

10…液体容器

11…主取手

12, 13…液体出入口

14, 15…蓋

20…容器本体

21…底面

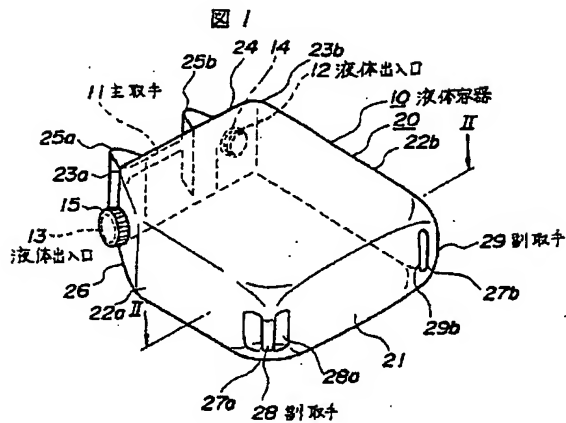
22a, 22b…側面

23a, 23b…コーナー

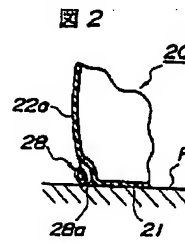
24…上面

28, 29…副取手

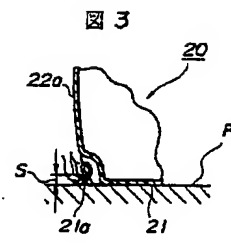
【図1】



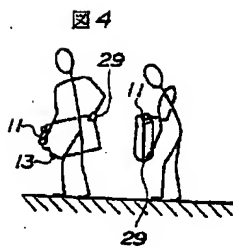
【図2】



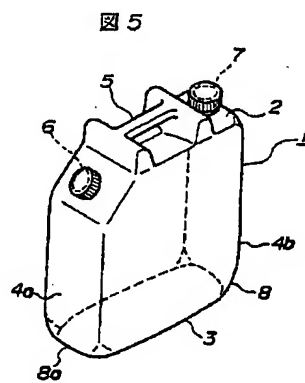
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

